

市制 55 周年記念事業

大府市中学生サミット会議録



令和 7 年 8 月 27 日（水）

大府市役所 議 場

大府市教育委員会

1 中学生代表

大府中学校	池 田 優 里
大府中学校	西 條 圭 哉
大府西中学校	石 濱 帆 波
大府西中学校	西 悠 真
大府北中学校	河 地 奈 菜
大府北中学校	馬 渕 友 希
大府南中学校	高 井 海 景
大府南中学校	伴 帆 夏

大府中学校	中 村 颯 斗
大府中学校	佐 野 巴 香
大府西中学校	安 江 咲 惠
大府西中学校	齊 藤 直 志
大府北中学校	相 羽 一 揮
大府北中学校	山 下 ひより
大府南中学校	花 井 彩夕里
大府南中学校	平 井 湊 翔

2 市執行部

市 長	岡 村 秀 人
副 市 長	山 口 智絵子
企画政策部長	長 江 敏 文
市民協働部長	中 村 浩
健康未来部長	北 川 美 香
産業振興部長	寺 島 晴 彦
水道部担当部長	矢 野 昭 裕
教 育 部 長	浅 田 岩 男
議会事務局長	原 田 好 美

副 市 長	新 美 光 良
教 育 部 長	松 山 靖
総 務 部 長	間 瀬 恵
福 祉 部 長	猪 飼 健 祐
都市整備部長	伊 藤 宏 和
水 道 部 長	福 島 智 宏
会 計 管 理 者	今 村 みよし
主席指導主事	倉 永 直 樹
消 防 部 長	近 藤 真 一

3 事務局職員

学校教育課長	原 田 亮 男
指 導 主 事	武 田 佳 大
学校総務係主事	三 輪 絢 音

指 導 主 事	北 嶋 真 弓
学校総務係長	籠 原 大 祐
議 事 係 長	榊 原 紗 希

4 議事日程

日 程	発 言 者	件 名
第 1	石濱 帆波	「音楽と健康を融合した健康都市おおぶ」の実現について
第 2	馬淵 友希	市民の皆さんの健康な未来について
第 3	花井彩夕里	音楽の力によって、年齢や障がいの有無を超えて、多くの人々が繋がることのできるまちづくりを目指して
第 4	池田 優里	健康都市おおぶのさらなる活性化に向けて
第 5	安江 咲恵	「大府市中学生サミット共同宣言」の発表

5 会議に附した事件

議事日程と同じである。

開会 午後1時30分

議長（中村颯斗）

皆さん、こんにちは。ただいまから「市制55周年記念事業大府市中学生サミット」を開会します。私は、本日の中学生サミットの議長として前半の部のとりまとめをします、大府中学校中村颯斗です。皆さんの御協力により、スムーズに会議を進行させたいと思います。よろしくお願いします。本日の議事日程につきましては、お手元に配布しました日程表により進めます。



議事を始める前に、本日の中学生サミットの目的について説明します。私たちの暮らす大府市は、市制施行から55年が経過しましたが、次世代を担う私たちが、これから先も、大府市を魅力のある住み続けたいまちにするため、中学生が実践することをまとめた「大府市中学生サミット共同宣言」の案を作成しました。この共同宣言を決定するため、本日は、全中学校の代表者が集まりました。また、私たちは、共同宣言の案を作成するに当たり、大府市のまちづくりについても学習し、私たちが実践できることを考えてきました。私たちが、これまでに気が付いたことを質問させていただくため、本日は、市長さん始め、市の幹部職員の皆さんに、中学生サミットへの出席をお願いしました。市の方々からいただいた回答を確認したうえで、本日ここで共同宣言を決定したいと考えていますので、よろしくお願いします。なお、本日は、大府市議会の議場を使用しておりますので、大府市議会の会議規則に習って進行をさせていただきます。発言をする時は、発言の許可を議長に求めてください。よろしくお願いします。

それでははじめに、中学生サミットの開会にあたり、市長さんから御挨拶をいただきます。市長。

市長（岡村秀人）

皆さん、こんにちは。大府市長の岡村秀人でございます。市制55周年記念事業中学生サミッ

トの開会にあたり、一言御挨拶を申し上げます。本市は昭和45年9月に大府町から大府市となり、今年で市制55周年を迎えます。市制施行以来、「健康都市」を都市目標として、中学生の皆さんをはじめ、こどもから高齢者の皆さんが、大府市に住んで良かった、これからも住み続けたいと感じてもらえるように、様々な取組をしてきました。

教育の分野では、皆さんが学校で使っている一人1台のタブレット端末の導入や、中学校での給食費の無償化にいち早く取り組んでいます。また、日本のバイオリン王として知られる鈴木政吉氏が創業した鈴木バイオリン製造株式会社や、竹澤恭子さんなど大府市出身の名演奏家の方々の御協力で、小学校でのバイオリン授業や中学校訪問コンサートなど、市独自の音楽教育にも力を入れています。そのような新たな市の特色である、「音楽のまち・バイオリンの里おおぶ」を推進する絶好の機会として、今回の55周年記念事業では、キャッチコピーを『Obu Crescendo!～健康と音楽が調和するまち～』としています。誰もが健康と音楽を通じて幸せを感じ、ウェルビーイングにつながる記念事業の一つとなるように、本日は、皆さんの提案を楽しみにしています。

中学生の皆さんは、学校の教室とは違う、議場の席に座っている今の心境はいかがですか。見慣れない景色に緊張していますか。私も中学生の皆さんの真剣な表情に少々緊張していますが、本日の議論の中から、実りある成果が得られるように頑張りましょう。傍聴席の保護者や学校関係者の皆さま、本日は御多忙のところ、また暑い中傍聴にお越しいただきありがとうございます。本日のサミットに向けて、中学生の皆さんは、学校関係者の皆様の御指導を頂きながら、熱心に準備いただきましたので、その成果を温かく見守っていただきたいと思います。

本日のサミットでは、中学生の皆さんの質問に対して、市の取組をお答えしたのち、最後に「健康と音楽が調和するまち おおぶ」を実現するための皆さんの決意を、「大府市中学生サミット共同宣言」という形で表明していただけると伺っています。本日のサミットが、皆さんの貴重な経験、思い出になるとともに、今後の大府市の更なる発展のきっかけとなることを願ひまして、開会の挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。

議長（中村颯斗）

ありがとうございました。それでは議事に入りたいと思います。「市政への質問・提案」を行います。中学生の代表者が市政への質問・提案を登壇して説明いたしますので、市長さん始め市の方々は、答弁をお願いします。なお、本日は、議場の両側に電子黒板を用意しました。質問・提案の説明とあわせて、私たちが学校で使用しているタブレットで作成したプレゼンテーション資料を提示します。あわせてご覧ください。

それでは、日程第1、大府西中学校・石濱帆波さんの質問・提案をお願いします。大府西中・石濱帆波さん。

中学生代表（大府西中学校・石濱帆波）

大府中学校の石濱帆波です。議長に発言の許可をいただきましたので、先に通告いたしました「『音楽と健康を融合した健康都市おおぶ』の実現について」、質問させていただきます。

まず私が考える大府市の現状について述べさせていただきます。現在、大府市は「健康都市」として愛知県が整備したあいち健康プラザを有し、健康増進・交流センターの施設の整備を進めるなど、健康づくりを推進しています。また、「バイオリンの里」として音楽文化の振

興にも力を入れ、音楽が市民の生活に根付いていることは素晴らしいことだと感じています。しかし、音楽と健康と一緒に考え、融合させた具体的な取組はまだ限られているのが現状です。この2つを組み合わせることでより効果的な健康づくりが可能になると私は考えます。音楽には、ストレス軽減や認知機能の向上、運動意欲の促進など、健康に良い影響を与えることが知られています。私たちが生活するこの大府市でも、音楽と健康を組み合わせた取組をさらに進めることで、市民の健康づくりに大きな効果をもたらすのではないのでしょうか。特に、音楽を通じて市民が心身ともに健康になり、地域の一体感や幸福感も高まると私は考えます。そこで、音楽と健康を融合させたプログラム「おおぶ音楽健康プロジェクト」を立ち上げることを提案いたします。具体的には、以下のような取組を考えています。

まず、大府市のキャラクター「おぶちゃん」を活用した「おぶちゃん体操」を、市内の学校や高齢者施設で実施すること。

次に、市内の公園や施設で、音楽に合わせたウォーキングやダンスイベントを定期的に行うこと。

さらに、高齢者施設や医療機関と連携し、音楽療法を取り入れた健康プログラムを実施することです。

以上の取組によって、「健康と音楽が調和するまち」という理念を具体化することを目指します。市民が主体となって参加できる仕組みを整え、持続可能な取組として定着させることが重要です。そこで以下の質問をさせていただきます。

1点目として、音楽を健康増進に役立てるための取組は現在どのように行われていますか。具体的な事業があれば教えてください。

2点目として、音楽活動を通じて市民の健康増進を図るため、例えば市民のための音楽イベントやコンサート、音楽療法を取り入れたプログラムなどの実施が考えられますが、市としての見解をお聞かせください。

3点目として、これからのまちづくりにおいて、音楽と健康がさらに調和するような事業を考えていく場合、何を達成することを目的に進めていく考えでしょうか。

音楽が市民の生活に深く根付くことで、より健康で活力あるまちづくりが実現できると私は考えます。音楽と健康が調和するまちづくりのために、ぜひ前向きな取組を進めていただきたいと思います。

以上で、私の壇上からの質問を終わります。

議長（中村颯斗）

答弁をお願いします。市長。

市長（岡村秀人）

私から、「『音楽と健康を融合した健康都市おおぶ』の実現について」の各項目について、お答えいたします。始めに御質問の1点目「音楽を健康増進に役立てるための取組は」についてお答えいたします。石濱さんの御質問にあったように、音楽には心身のリラックス効果や幸福感をもたらす効果があることは、様々な研究でも立証されており、音楽を聞くこと、楽器を演奏すること、歌を歌うことなど、受動的であっても、能動的であっても、心身の健康につながるものだと考えています。本年9月に市制施行55周年を迎えるにあたり、音楽の健康への効

果を踏まえ、記念事業のテーマを「健康と音楽」と設定し、様々な事業を展開します。具体的な事業として、11月2日に大府みどり公園で開催する「おおぶ野外クラシックコンサート」や、来年2月22日に愛三文化会館で開催する、大府市出身の世界的音楽家3人、バイオリニストの竹澤恭子さん、チェリストの佐藤桂菜さん、ピアニストの進藤実優さんとセントラル愛知交響楽団のオーケストラによる協奏曲コンサートなどがあります。この他、市内には音楽活動ができるホールを備えた施設として「愛三文化会館」と「おおぶ文化交流の杜」の2つがあり、大小様々な演奏会や講座など、たくさんの音楽事業を行っていますので、皆さんもぜひ積極的に参加していただき、音楽に触れ、音楽の楽しさを感じてください。また、市内全ての小学校で4年生を対象にバイオリンの授業を行い、新たな楽器に触れる機会を作るとともに、「文協音楽祭」やロビーコンサートなど発表の場を設け、文化活動に係る事業費を補助するなど、自ら行う文化活動の支援も行っております。今後も、より多くの方が音楽を楽しみ、心身の健康を増進できるよう、様々な事業を展開してまいります。

次に御質問の2点目「音楽活動を通じて市民の健康増進を図るため、例えば市民のための音楽イベントやコンサート、音楽療法を取り入れたプログラムなどの実施が考えられるが、見解はどうか」についてお答えいたします。先日、京都大学から「高齢期に継続的に楽器の演奏を行うと、認知力の維持・向上に効果がある」という内容の研究結果が発表されました。

また、本市には、日本有数の健康長寿に関する研究機関である国立長寿医療研究センターが立地しており、認知症予防を始め、長寿医療の分野に関して同センターとも連携して取り組んでいるところです。音楽を活用した事業としては、市広報大使でバイオリニストの水野紗希さんと、ギタリストの山下俊輔さんが、本年7月11日にあいち小児保健医療総合センターと、国立長寿医療研究センターで訪問型のアウトリーチコンサートを行いました。今後もさまざまなアーティストが市内の福祉サービス事業所を訪れ、コンサートを開催する予定です。また、公民館では、昔の音楽を聴いたり、歌ったりしながら語り合う「音楽回想法」を体験する講座や、ギターやハーモニカなど楽器の入門講座を行うなど、世代を問わず、音楽に親しんでいただける取組も行っています。私も参加している大府ばやし・小唄保存会では、民謡音楽に合わせて盆踊りを練習し、この夏の祭りの中でも盆踊りの中心となって活動されており、その様子を見て私も元気もらっています。このように、音楽を通じた活動の機会は数多くありますので、引き続き様々な事業で音楽を活用し、市民の皆さんが楽しみながら健康を増進できるよう進めてまいります。

次に御質問の3点目「音楽と健康がさらに調和するような新しい事業を考えていく場合、何を達成することを目的に進めていくのか」についてお答えいたします。音楽をはじめ、文化芸術に関わることは、こどもから高齢者、外国の方など、全ての人々にとって、交流や社会参加へのきっかけとなり、生活の質、いわゆる「QOL」や幸福度を高める有効な手段であると考えています。本市は、市制施行以来、健康都市をテーマにまちづくりを進めてまいりました。人の健康には、体の健康だけでなく心の健康も大きな要素です。「ひとの健康」に加え、「くらしの健康」、「まちの健康」、「みらいの健康」の全体を進めるため、様々な分野で音楽を活用してまちづくりを進めてまいります。

議長（中村颯斗）

答弁が終わりました。

答弁に対する意見および感想はありませんか。大府西中学校・齊藤直志さん。

中学生代表（大府西中学校・齊藤直志）

丁寧な答弁ありがとうございました。病院や福祉施設での「訪問型アウトリーチコンサート」や、公民館での「音楽回想法」の体験講座などの取組を、はじめて知ることができました。私は、これまで、音楽が主にストレス軽減など気持ちの面で大きな影響を与えるだけのものだと思っていました。しかし、音楽が記憶や感情を呼び起こし、それらを語り合い高齢者の精神的健康を促進することで、健康と音楽が調和していることも知ることができました。病院や福祉施設など、普段なかなか演奏会などに出向けない方々のためにアウトリーチコンサートをしてくださるのは、市民一人一人の健康について考えてくれている、大切な取組であると感じました。また、大府市出身の世界的音楽家の方々による演奏会など、たくさん音楽に触れる機会をつくってくださっている、大府市の取組は非常にありがたいと感じています。みどり公園での野外クラシックコンサートは大きなホールではなく公園という、こどもでも行きやすい会場で、気軽に音楽に親しむことができます。これからもぜひ続けていただきたいと感じました。音楽療法については、大府市民の健康と音楽の調和の実現を目指すためにも、引き続き、情報収集や研究をお願いします。「音楽と健康を融合した健康都市おおぶ」の実現にむけて、私も学校に戻って、大府市の文化芸術に関する事業について、全校生徒に呼びかけるなどして、年齢や立場を超えて人とつながる機会が広がるよう、より一層努力していきます。

以上です。

議長（中村颯斗）

以上で、日程第1の大府西中学校の代表者からの質問・提案を終了します。

続いて、日程第2、大府北中学校・馬淵友希さんの質問・提案をお願いします。大府北中・馬淵友希さん。

中学生代表（大府北・馬淵友希）

私は、大府北中学校の馬淵友希です。議長に発言の許可をいただきましたので、先に通告いたしました「市民の皆さんの健康な未来について」、質問させていただきます。現在、大府市が掲げている「健康増進計画」において、「主体的な健康づくり」や「主観的健康観の向上」といった目標が、残念ながらまだ達成できていない状況にあると認識しています。特に、働き盛りの20代から50代の方々の健康づくりへの参加割合が低いという課題があると私は考えています。この現状を改善するためには、まさにこの年代の方々が、もっと気軽に健康づくりに取り組めるような工夫が必要だと強く感じています。そこで私は、この問題を解決するために、「いつでもどこでも運動」に取り組める環境をさらに整えることが重要だと考えます。大府市には、市民球場や学校開放、テニスコート、メディアス体育館おおぶなど、団体や複数人で利用できる運動施設はたくさんあります。しかし、日中仕事をしている20代から50代の方々が、仕事終わりのちょっとした空き時間に、一人でも手軽に運動できる施設や機会は、まだ十分ではないのではないのでしょうか。この課題意識から、質問をさせていただきます。

まず、ジムへ通う方への補助金制度についてです。大府市内には、多くのフィットネスジムがあります。家から近いジムを選べば、移動時間も少なく、自分の都合に合わせて「いつでも

どこでも」運動に取り組むことができます。しかし、ジムの会費は決して安くなく、経済的な負担から利用をためらう方も少なくないと思います。大府市がジムの利用料金の一部を補助することで、市民の皆さんがもっと気軽にジムを利用できるようになるのではないのでしょうか。1点目として、ジムへの補助金は、市民の皆さんの健康づくりを後押しする有効な手段だと考えますが、市の見解をお聞かせください。

次に、エクササイズ動画の作成と提供についてです。大府市には「おぶちゃん体操」という素敵な体操があります。この体操のバリエーションをさらに増やし、様々なエクササイズ動画として提供してはいかがでしょうか。エクササイズ動画であれば、自宅で手軽に「いつでもどこでも」運動に取り組めます。現状では動画の種類が限られているように感じます。2点目として、筋力トレーニングや柔軟運動、有酸素運動など、目的に合わせた多様な種類の動画を追加することで、より多くの市民の皆さんが飽きずに運動を続けられるようになると思いますが、市の見解をお聞かせください。

次に、ウォーキングコースを利用しやすくする工夫についてです。大府市にはウォーキングコースがあり、運動の目標達成のモチベーションにもつながる、とても良い取組だと感じています。しかし、中学生の私の目から見ても、どこがコースなのか分かりづらいと感じるのが正直なところです。実際にウォーキングコースを利用したことがあるのですが、「次はどっちに行けばいいんだろう?」、「どこに向かっているんだろう?」と、常に全体マップを確認しなければならず、利用しづらく感じました。3点目として、より多くの市民の皆さんが安心してウォーキングを楽しめるようにするために、何か工夫したほうが良いと考えますが、いかがでしょうか。以上、大府市の考えをお聞かせいただければ幸いです。市民の皆さんが健康で生き生きと暮らせる大府市になるよう、御検討よろしくお願いいたします。

以上で、私の壇上からの質問を終わります。

議長（中村颯斗）

答弁をお願いします。市長。

市長（岡村秀人）

私から、「市民の皆さんの健康な未来について」の各項目について、お答えいたします。始めに御質問の1点目「フィットネスジム利用者への補助制度の考えは」についてですが、本市では、市民の皆さんが気軽に運動を始め、日常的に健康づくりに取り組めるよう愛知県の施設である「あいち健康プラザ」のトレーニングルームの利用者に対し、健康度評価の簡易コースやトレーニングルーム利用料の半額を助成しております。また、メディアス体育館おおぶや愛三文化会館にトレーニングルームを設置しており、屋内でランニングやウォーキングができるトレッドミルをはじめ、多様な運動器具を利用することができます。利用料金についてもメディアス体育館おおぶでは、1回につき210円、月額では2,100円という利用しやすい料金で提供しており、市民の皆さんがより身近に運動を楽しめる環境づくりを進めております。若い世代の方からこうした問題意識が示されることは、私にとっても大変励みになります。

次に御質問の2点目「エクササイズ動画の作成と発信の考えは」についてお答えいたします。

「おぶちゃん体操」は、2010年に本市の市制40周年を記念して作られた体操で、市公式ウェブサイトにも公開しています。また、本市にある国立長寿医療研究センターの公式ユーチューブ

チャンネルでも御家庭で気軽に取り組める運動を発信しています。現在、インターネット上には、多種多様な体操動画が公開されておりますので、皆さんには御自身の体調や目的に合った動画を、毎日の健康づくりにお役立ていただきたいと思います。本市では、健康づくりの取組として、誰でも気軽に始めやすく、運動の時間や強さも自分で調整しやすい「ウォーキング」を紹介しています。ぜひ、皆さんもお住まいの地域で、家族や仲間たちと一緒にウォーキングを楽しんでいただきたいと思います。

次に御質問の3点目「ウォーキングコースを利用しやすくする工夫は」についてお答えいたします。本市では、市民の皆さんが楽しく健康づくりに取り組めるよう、10種類のウォーキングコースのほか、河川沿いや池の周りを歩くコースを掲載した「おおぶ健康都市ウォーキングマップ」を発行しています。市の中心を南北に流れる鞍流瀬川沿いには、飛び石や健康遊具が設置された歩道を整備しており、楽しみながら体を動かすことができます。また、石ヶ瀬川沿いには、サクラやカラシナなどの季節の草花を眺めながら歩ける、心地よい歩道を整備しています。大府みどり公園や二ツ池公園には、自然に囲まれた周回路があり、季節の花や森林浴を楽しむながらウォーキングすることができます。このように、本市では、季節の風景を楽しみながら健康づくりができる、個性豊かなウォーキングコースを整備していますので、御自身の好きな道や歩きやすい道とこれらのコースを組み合わせ、自分ならではのウォーキングコースを楽しんでいただきたいと思います。今後も、市民一人ひとりが健康づくりに自発的に関わる意識を持ち、気軽に運動や健康づくりに取り組むことができるまちづくりを皆さんとともに進めてまいります。

議長（中村颯斗）

答弁が終わりました。

答弁に対する意見および感想はありませんか。大府北中学校・山下ひよりさん。

中学生代表（大府北中学校・山下ひより）

丁寧な答弁ありがとうございました。健康増進に向け「0BUエニスポ」というクラブがあることは知っていましたが、健康増進に向けてトレーニング施設の設置、企業や地域と連携しているイベントを開催することなど、非常に手厚く活動していることについては身近に感じていませんでした。トレーニング施設では運動に手頃に取り組めるよう、利用しやすい料金が設定されており、大府市民がより気軽に楽しく運動に親しめる工夫がされていることを実感しました。私たち市民は「運動しなくても平気」「自分には関係ない」という意識ではなく、一人一人が健康を意識して運動に取り組むことが、大府市全体の健康の輪が広がっていくことだと思います。また、友達や家族などを誘い一緒に楽しく高め合い、励まし合いながら運動することも良いことだと思います。大府市には運動に親しむことができる環境をつくるために、多くの工夫が施されていることを知り、大府市民で良かったと改めて感じました。健康づくりのために運動をすることは、大切であると考えていますので、大府市民の健康な未来のために今後も施策を一層充実させていただきたいと思います。私自身も家族や友人と声をかけ合い、地域の運動施設などを活用して体を動かす習慣を広めていきます。

以上です。

議長（中村颯斗）

以上で、日程第2の大府北中学校の代表者からの質問・提案を終了します。

続いて、日程第3、大府南中学校・花井彩夕里さんの質問・提案をお願いします。大府南中・花井彩夕里さん。

中学生代表（大府南・花井彩夕里）

大府南中学校の花井彩夕里です。議長に発言の許可をいただきましたので、先に通告いたしました「音楽の力によって、年齢や障がいの有無を超えて、多くの人々が繋がることのできるまちづくりを目指して」、質問させていただきます。はじめに、大府市の現在の取組について述べさせていただきます。現在、大府市では、市内全小学校の4年生を対象に、音楽授業において、バイオリンの演奏を行っていたり、大府市出身のバイオリニストが、小学校や中学校を訪問してコンサートを開いたりするなど、音楽を身近に感じられる取組が進められています。また、緑豊かな公園で、バイオリンの音色を楽しめるコンサートを開催されており、子どもから大人まで音楽に親しめる環境が整いつつあります。このような取組はとても素晴らしいと感じていますが、一方で、参加できる人が限られているという課題もあると感じています。例えば、高齢の方や障がいのある方など、会場に行くのが難しい方々にとっては、参加が難しい場合もあります。そこで私は、誰もが参加しやすく、楽しめる音楽イベントにするために、提案を交えて質問させていただきます。公園などの音楽イベントの会場をバリアフリーに整備することで、高齢者や車いす利用者なども安心して来場できるようになります。

1点目として、公園などの音楽イベント会場は、バリアフリーとなっていますか。外出が難しい方々にも音楽の喜びを届けることは、心のつながりや豊かさにもつながると思います。

2点目として、介護施設、特別支援学校、院内学級など、外出が難しい方々のもとに出向いて、音楽会を開催する取組を行ってはどうでしょうか。

音楽には、年齢、障がいの有無をこえて、人の心と心をつなぐ力があると私は信じています。また、バリアフリー化によって、誰もが使いやすく、楽しめる環境をつくることができます。そうした取組を通じて、誰もが安心して参加でき、笑顔でつながれるまちを目指したいと考えています。以上、市の見解をお伺いします。よろしくお願いいたします。

以上で、私の壇上からの質問を終わります。

議長（中村颯斗）

答弁をお願いします。市長。

市長（岡村秀人）

私から、「音楽の力によって、年齢や障がいの有無を超えて、多くの人々が繋がることのできるまちづくりを目指して」の各項目について、お答えいたします。始めに御質問の1点目「公園などの音楽イベントの会場はバリアフリーとなっているか」についてですが、本市では、鈴木バイオリン製造株式会社の本社工場の誘致を契機に、創業者・鈴木政吉氏の功績や本市出身演奏家の活躍を活かし、音楽によるまちづくりを進めています。市制55周年を迎える本年度は、「健康と音楽」をテーマに、さまざまな記念事業を展開しています。本年11月2日には、大府みどり公園で「おおぶ野外クラシックコンサート」を開催する予定です。当日は、シャト

ルバスの運行や車いす優先の観覧スペースを設け、誰もが安心して参加できる環境を整えることで、幅広い世代が音楽に親しむ機会となるよう努めます。また、会場の大府みどり公園をはじめ市内の公園は、「大府市人にやさしいまちづくり基本計画」や「大府市移動等円滑化のために必要な特定公園施設の設置に関する基準を定める条例」に基づき、十分な道幅や階段、スロープに手すりを設置するなど、バリアフリーに対応しています。遊具にもバリアフリーの観点を取り入れ、本年度は、北山町で整備する公園に、障がいの有無にかかわらず遊べる「インクルーシブ遊具」を導入する予定です。更に本年12月13日には、「おおぶ文化交流の杜」で、音楽を光や振動で体感できる装置「SOUND HUG」を用いた「おおぶ・やさしい音楽会」を開催し、聴覚障がいのある方を含め、誰もが音楽を楽しめる取組を進めます。あわせてソフト面でも、物理的な環境整備に加え「心のバリアフリー」を推進しています。「大府市認知症に対する不安のないまちづくり推進条例」や「大府市手話言語条例」、「大府市障がいのある人のコミュニケーション手段の利用の促進に関する条例」の制定、さらには全国初となる「認知症ヘルプマーク」の導入などにより、誰もがお互いの人格や個性を尊重し合える共生社会の実現を目指しています。今後も音楽をはじめとする取組を通じて、市民が年齢や障がいを越えてつながる「やさしいまちづくり」を進めてまいります。そして、若い世代の皆さまが、この視点でまちづくりに関心を寄せてくださることを、大変心強く感じています。

次に御質問の2点目「介護施設、特別支援学校、院内学級など、外出が難しい方々のもとに出向いて、音楽会を開催する取組はどうか」についてお答えいたします。高齢の方や障がいのある方に音楽の楽しさを届けることは、とても大切な取組であると私も感じております。本市では、昨年度は鈴木バイオリン製造株式会社に協力いただき、小野田祐真さん、柴垣凜乃さんによる「バイオリン講座」を社会福祉法人憩の郷・ライムぷらすの利用者向けに開催し、音色と楽器に触れる機会を提供しました。本年度は、先ほどの石濱さんの御質問でお答えしましたように、あいち小児保健医療総合センター及び国立長寿医療研究センターにおいて、水野紗希さん、山下俊輔さんによる「やさしい音楽を届けるアウトリーチコンサート」を開催しました。また、老人ホームさわやかなの丘においても、鈴木バイオリン製造株式会社の小野田祐真さんによる演奏会を実施するなど、地元の演奏家による出張演奏を展開しています。今後も、特別支援学校や社会福祉施設など、音楽の力を必要としている場所へ、その喜びを届けられるよう、関係機関と連携しながら取組を広げてまいります。

最後に、御質問で伝えてくださった「誰もが安心して参加でき、笑顔でつながれるまちを目指したい」という思いに、私も深く共感しました。中学生の皆さんが、思いやりのある視点でまちの未来を考えてくださることは、市にとって大変心強いことです。これからも、誰もが文化や芸術にふれ、心豊かに暮らすことができるまちづくりを進めてまいります。

議長（中村颯斗）

答弁が終わりました。

答弁に対する意見および感想はありませんか。大府南中学校・高井海景さん。

中学生代表（大府南・高井海景）

答弁ありがとうございました。市内の全小学校4年生を対象としたバイオリン授業では、小学生の時からバイオリンを通して音楽を身近に感じたり、体験したりできる機会を作っていた

だいていることを非常にありがたく思っています。また、大府みどり公園にて開催されている「おおぶ野外クラシックコンサート」では、会場となる公園が条例に基づき、バリアフリーの視点を取り入れた環境づくりを進めていただいていることを初めて知りました。このような環境づくりは高齢者や障がいのある方々にとって、とても心強い取組であり、互いを認め合い、支え合いながら共に生きる姿勢につながると思います。どちらもぜひ続けていただきたいと感じました。次に、「外出が難しい方々が参加できる音楽会などに行えないか」という質問については、答弁を聞き、特別支援学校や病院などを対象に音楽の力、喜びを届ける取組を広げていけるように考えていただけることがわかり、安心しました。私たち中学生もボランティアや観客として家族や友人と声をかけ合い、地域で行われる活動に主体的に関われるようにします。そして、一緒に参加している方々に思いやりや助け合いの心を持って接することで、「心のバリアフリー」を進めることに協力していきたいと思えます。

以上です。

議長（中村颯斗）

以上で、日程第3の大府南中学校の代表者からの質問・提案を終了します。

続いて、日程第4、大府中学校、池田優里さんの質問・提案をお願いします。大府中・池田優里さん。

中学生代表（大府・池田優里）

大府中学校の池田優里です。議長に発言の許可をいただきましたので、先に通告いたしました「健康都市おおぶのさらなる活性化に向けて」について、質問させていただきます。私は、健康都市を掲げる大府市が、さらに市民の皆さんの健康増進に貢献できるよう、現状を再確認し、今後の課題について質問させていただきます。まず、私が調べた大府市の現状について述べたいと思います。平成23年の大府市における平均寿命と健康寿命の差は、男性が1.5年、女性が3.4年でした。この差がゼロに近いほど、健康でいられる期間が長いことを意味します。しかし、令和5年のデータを見ると、男性1.7年、女性3.6年と、男女ともにこの差が広がっていることが分かります。この健康寿命と平均寿命の差を縮めることが、大府市が「健康都市」としてさらに発展していくための重要な課題だと考えます。そこで、この課題解決に向けた具体的な取組として、2つの提案をさせていただきます。

まず、全世代が楽しめる運動機会の創出です。健康寿命の延伸には、日々の生活習慣、特に運動習慣が大きく関わっています。大府市が作成している「みんなの健康づくり推進プラン」の資料を見ますと、生活習慣病予防に「運動」が大切だと認識している市民の割合が低い現状があります。この状況を変えるため、老若男女問わず、誰もが気軽に親しめる新しい運動プログラムやイベントを企画し、実施していくことで、市民全体の健康増進につながり、平均寿命と健康寿命の差も縮まっていくと考えます。

次に、多世代交流の場の活性化です。大府市には大人と子どもが気軽に交流できるイベントが少ないと感じています。普段交流することのない異なる世代が交流することで、若い世代は新しい知識を、中年世代は多様な技能を、そして高齢世代はこれまでの豊かな経験を分かち合うことができます。このような世代間の刺激は、それぞれの心身の健康にも良い影響を与え、地域全体の活力を高めることにつながると考えます。

以上の現状認識と提案を踏まえ、質問させていただきます。

1点目として、平均寿命と健康寿命の差を縮め、市民がより長く健康に生活できる社会を実現するために、大府市はどのような取組を考えていますか。

2点目として、老若男女が安心して、そして生き生きと暮らせる「まちづくり」を進める上で、大府市はどのような具体的なビジョンをお持ちでしょうか。私たち中学生も、自分たちを含めた市民みんなが健康に生活できるよう、地域の一員として貢献したいと考えています。例えば、地域の健康イベントへの参加促進や、学校での健康・食育に関する授業の企画・実践など、私たち中学生にできることはたくさんあると思います。

3点目として、私たちに期待すること、あるいは協力できる具体的な取組について、お考えをお聞かせください。

以上で、私の壇上からの質問を終わります。

議長（中村颯斗）

答弁をお願いします。市長。

市長（岡村秀人）

私からは、「健康都市おおぶのさらなる活性化に向けて」の1点目及び2点目について、お答えいたします。始めに御質問の1点目「平均寿命と健康寿命の差を縮め、市民がより長く健康に生活できる社会を実現するために、大府市はどのような取組を考えているか」についてお答えいたします。本市では、「健康都市おおぶみんなの健康づくり推進プラン」を策定し、評価指標の一つとして、2030年度までに「平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加」を目標に掲げ、乳幼児期から高齢期に至るまで、幅広い取組を実施しています。まず、乳幼児期から学齢期では、健康的な生活習慣を確立するため、知多半島で唯一、市内全ての小中学校において、自校調理方式を導入することで、アレルギーへの配慮や栄養バランスのとれた温かい給食を提供しています。次に、青年期から壮年期にかけては、生活習慣病対策に重点を置き、予防や早期発見のための特定健康診査後の保健指導に積極的に取り組んでいます。2023年度における国民健康保険加入者への特定保健指導の実施率は、全国の29.1%に対し、本市は66.4%と、多くの方に保健指導を実施しています。また、高齢期には、要介護を防ぐフレイル対策の観点から、プラチナ長寿健診や食べる機能健診、長寿塾などの事業を通して、栄養・口腔・認知機能・運動・社会活動といった多面的な視点から支援を行っています。これらの取組の成果として、計画策定時である2020年度と比較し、直近の本市の健康寿命は男女ともに延びており、着実に効果が現れているところです。

次に、御質問の2点目「老若男女が安心して、生き生きと暮らせるまちづくりを進める上で、大府市はどのような具体的なビジョンを持っているか」についてお答えいたします。本市は、具体的なまちづくりのビジョンとして、「おおぶこども輝く未来応援八策」、「おおぶ活き活き幸齢者応援八策」を策定しています。「おおぶこども輝く未来応援八策」では、中学校の給食費の無償化をはじめ、小学生の早朝の居場所づくりモデル事業に取り組むなど、子育て支援の充実を図っています。また、こどもたちの意見を聴く機会を設け、政策や社会に反映することで、こどもの視点に立った、こどもどまんなかおおぶの実現を目指しています。「おおぶ活き活き幸齢者応援八策」では、市民活動やボランティア活動への参加を支援することで、高齢

者の皆様が活躍できる場を創出し、貢献寿命の延伸を図るなど、人生100年時代においても、誰もがいきいきと活躍し、心豊かに安心して暮らし続けることができる地域社会の実現を目指しています。また、本市では、独自に認知症ヘルプマークを作成するなど、認知症不安ゼロのまちづくりを推進しており、その一環として、中学1年生向けに認知症サポーター養成講座を開催しています。中学生の皆さんには、認知症への正しい知識と理解を深め、地域生活の中で実践していただきたいと考えております。今後も、市民一人ひとりが心身ともに健康であり、将来にわたって健やかに暮らすことのできる持続可能な健康都市の実現に向け、全力で取り組んでまいります。

議長（中村颯斗）

教育長。

教育長（松山靖）

私からは、御質問の「健康都市おおぶのさらなる活性化に向けて」の3点目「市民みんなが健康に生活できるよう、私たちに期待することは何か」について、お答えいたします。本市は、健康都市の実現に向けて、全ての市民が心も体も健康になるように、健康づくりや食育、スポーツ、文化活動などを推進しています。また、防災、環境、道路、公園整備など「まちの健康」の分野でも、市独自の様々な事業を進めています。中でも、教育の分野では、1人1台端末の整備、バイオリンによる音楽教育の推進、中学生の海外や沖縄、長崎、広島県への派遣事業、自校調理によるおいしい給食の提供や給食費の無償化、教育支援センターや校内教育支援室といった長期欠席児童生徒の居場所の拡充など、全ての中学生が本市の学校に通ってよかったと感じてもらえるように力を入れて取り組んでいます。本市のまちづくりにおいて、未来を担う中学生の皆さんの役割は非常に重要です。皆さんが地域の一員として、自分たちにもできることを考え、行動しようとする姿勢は、本市にとって大きな希望です。中学生の皆さんは、自己肯定感を大切にしてください。自分の存在や努力、可能性を前向きに捉える気持ちを持つとともに、友達や周囲の人々と認め合い、助け合いながら過ごしていくことがとても重要です。

皆さんは、学校生活の中で生徒会活動や各種のイベントなどで、主体的に考え行動していると思います。また、地域でも祭りや防災訓練など、これまでも積極的に活動してもらっています。その上で、中学生の皆さんに期待することは、自分たちが住んでいる大府市をより一層住みやすいまちにしたいという、自主自立の精神で何事にも挑戦する勇気を持って欲しいということです。中学生でも地域社会を変えることができるという前向きな気持ちを持って、まちづくりに参加していただきたいと思います。大府市は、これからも皆さんの学びと成長を応援し、ともに健康なまちをつくっていくパートナーとして、学校や地域と連携を深めていきます。ぜひ、皆さんの元気と創造力で、本市のまちづくりと一緒に盛り上げてください。よろしくお願いいたします。

議長（中村颯斗）

答弁が終わりました。

答弁に対する意見および感想はありませんか。大府中学校・西條圭哉さん。

中学生代表（大府・西條圭哉）

丁寧な答弁ありがとうございました。大府シティ健康マラソン大会やウォーキング大会だけでなく、様々な競技のスポーツイベントが開催されていて、健康づくりの機会が提供されていることを非常にありがたく思います。私たち市民が健康な体づくりに取組、今後も多世代と交流できるイベントを企画してもらうことで、今後も健康寿命の延伸に繋げていただきたいと思います。また、多世代が交流できる場として、大府市健康増進・交流センターの整備を予定しているということを始めて知りました。大府市には、健康の森やあいち健康プラザなどの市民が積極的に健康づくりをすることができる環境が提供されているのは、私自身がそれらの施設を利用することでも実感しています。今後、健康都市の新たな拠点が整備されることで、今以上に市民が笑顔で暮らせる健康なまちづくりがされることを期待しています。答弁をお聞きして、改めて私たち中学生が主体となって、健康づくりや多世代の交流に積極的に関わることが大切だと感じました。学校へ戻り、今回頂いた答弁を踏まえて大府市が開催するイベントへの参加を全校生徒へ呼びかけます。そして、地域の一員としての自覚をもち、自分たちにできることを考え、地域社会の活性化に前向きに挑戦したいと思います。

以上です。

議長（中村颯斗）

以上で、日程第4の大府中学校の代表者からの質問・提案を終了します。

お諮りします。ここで、休憩をとりたいと思います。御異議はありませんか。

（「異議なし」の声あり）

異議なしと認めます。

これまでの答弁を踏まえ、共同宣言の内容について、中学生代表者で協議を行う時間を設けます。

中学生は全員協議室へ移動してください。

休憩します。再開は15時15分とします。

休憩 午前2時53分

再開 午前3時15分

議長（伴帆夏）

ここで議長を交代します。

後半の部のとりまとめをします、大府南中学校の伴帆夏です。みなさんの御協力により、会議をスムーズに進行させたいと思います。よろしくお願いします。

それでは、議事を再開します。日程第5、「大府市中学生サミット共同宣言」の発表を行います。先ほどの休憩中に、中学生代表者で協議した結果、共同宣言を原案どおり決定し、宣言文に代表者が署名しました。

ここで、大府市中学生サミット共同宣言を皆さんに発表いたします。なお、市長さんには、私たちの決意を受け止めていただき、私たちが実践する取組を応援していただきたいと思います。

はじめに、共同宣言の作成経緯にて説明をしてもらいます。大府北中学校・相羽一揮さん。

中学生代表（大府北・相羽一揮）

私たち大府市内4中学校の代表生徒は市制55周年記念行事として企画された「中学生サミット」に参加することができ、健康と音楽について学んだり、大府市の取組を確認したりして、本日を迎えることができました。

音楽の研修では、鈴木バイオリン製造株式会社 代表取締役の小野田祐真さんから、鈴木バイオリンの歴史や大府市とのゆかりについて教えていただきました。鈴木バイオリンは、職人としてバイオリンに人生を賭け、生涯製作を楽しみ抜いた鈴木政吉さんによって創られた歴史ある会社であり、1935年に大府分工場が新設されました。そのような大府市にゆかりのある鈴木バイオリンは小学校でバイオリン授業を行ってくださったり、学校訪問コンサート、保育園音楽会を開いてくださったりと、私たちが日常で音楽に触れる機会を増やしてくださっています。

私たちにとって、今回の「中学生サミット」は、健康と音楽を通じて幸せを感じ、希望を抱くことができる健康都市おおぶの実現につなげていくために、自分たちに何ができるかを考える機会になりました。そして、本日の大府市長はじめ、市の方々からの答弁で、大府市は未来のことを考え、既に多くの取組を行っていることを確認することができました。

大府市は55年の歴史を誇る「健康都市」のトップランナーであり、健康都市おおぶをつくるために健康づくりプランを実施しており、多様な部門と連携し健康都市を推進するための政策が世界的にも評価されています。

しかし、20～50代の人たちが健康づくりにあまり取り組めていないという現状もあります。大府市が更なる健康都市づくりを進めていくにあたって数年後には成人となる僕たち中学生にもとめられる役割はとても大きいと感じます。「健康と音楽が調和するまちおおぶ」の実現をめざしていくためには、その基盤として次のことが重要であると気付くことができました。

- ・地域の人たちと協力して、1人1人がもっと元気に笑顔で暮らせるまちづくりをすること
- ・私たち中学生が地域の人たちとともに運動や音楽に積極的に取り組むこと
- ・大府市のスポーツや音楽イベントへ積極的に足を運び、運動や音楽に親しむこと

以上のことを踏まえ、私たち中学生の共同宣言を発表します。

議長（伴帆夏）

それでは、代表者から、大府市中学生サミット共同宣言の発表をお願いします。大府西中学校・安江咲恵さん。

中学生代表（大府西・安江咲恵）

大府市中学生サミット 共同宣言。

私たちは、大府市すべての中学生を代表し、市が掲げる「健康づくり都市宣言」および「平和都市宣言」の理念に基づき、「健康と音楽が調和するまちおおぶ」の実現を目指して、私たちにできる実践を決意として宣言します。

宣言1. 地域の人たちと協力して、誰もが笑顔で暮らせる健康なまちをつくります

（1）地域の健康づくりに関するイベントに関心をもち、積極的に参加します。

- (2) 家族や友人と声をかけ合い、地域で行われる活動に主体的に関わります。
- (3) 地域の一員としての自覚をもち、自分にできることを考え、行動に移していきます。

宣言2. 日々の生活に音楽を積極的に取り入れ、地域の人たちとともに心身の健康増進に励みます

- (1) 生活習慣を見直し、規則正しい生活を心がけます。
- (2) 日常生活の中に音楽を取り入れる時間を意識して設け、心と体のリズムを整えます。
- (3) 家族や友人と声をかけ合い、地域の運動施設などを活用して体を動かす習慣を広めます。

宣言3. 音楽の力で、年齢や障がいを超えてすべての人がつながるまちを目指します

- (1) 互いの違いを認め合い、支え合いながら共に生きる姿勢を大切にします。
- (2) 歌や楽器、リズム体操などに親しみ、心と体の健康づくりを楽しく続けていきます。
- (3) 音楽イベントや地域の交流活動に積極的に参加し、年齢や立場を超えて人とつながる機会を広げます。

私たちは、この共同宣言に基づき、健康と音楽の力で、私たちのまち「おおぶ」が、もっと元気に、もっと笑顔であふれるまちとなるように、日々の学校生活や家庭、地域の中で、一つひとつの行動を着実に実行していくことを誓います。

(拍手あり)

議長（伴帆夏）

ありがとうございました。

続きまして、共同宣言について、御賛同いただくため、市を代表して市長さんに宣言文への署名をお願いします。市長さんは、質問席へ移動して御着席ください。

(市長、質問席に着席)

それでは、宣言文への署名をお願いします。

(市長、宣言文に署名)



それでは、市長さんから署名いただきました宣言文を中学生代表者にお渡ししたいと思っています。市長さんは、質問席の前に移動してください。

それでは、中学生代表者へ宣言文をお渡しください。

(拍手あり)

ありがとうございました。席にお戻りください。

以上で、本日の日程は全て終了しました。円滑な議事進行に御協力いただき、ありがとうございました。

閉会にあたり、教育長さんから、御挨拶をいただきます。教育長。

教育長（松山靖）

教育長の松山です。中学生サミットの閉会にあたり、一言御挨拶申し上げます。中学生サミットの全日程が無事終了しました。まずは16名の中学生議員の皆さん、本当にお疲れ様でした。姿勢を正し、緊張した時間でしたね。市議会を準備段階から実際に体験し、「今日は良

かった」と思える日になりましたか。皆さんのエネルギーに溢れ、議会に真摯に向かう姿を拝見し、「さすが中学生」と感心しました。今日の貴重な体験を「議会記念日」として、ぜひ心に留めていただき、今後の学校での生徒会活動などの一助にいただければ嬉しく思います。

さて、今回の中学生サミットは、中学生の皆さんに市民の一人として、本市の目指すべき未来に向けて意見を持ち寄り、まちづくりについて様々な世代の視点から考えるきっかけとするため開催したものです。こうして中学生の皆さんと、市制55周年「健康と音楽」というテーマが持つまちづくりの深い意味を改めて共有出来たことは、とても意義深いものとなりました。皆さんの熱意に応えるため、市長さんをはじめ市の担当部署の幹部の皆さんも出来る限り具体的にわかりやすい答弁となるよう、入念に準備を重ねてくださいました。市長さんが全ての質問に一人で答弁されたのは、まさに究極の大サービスと言えるでしょう。皆さんが話し合い、考えた共同宣言のキーワードは、「地域と協力、一人一人の笑顔、運動や音楽に親しみ、全ての人が繋がるまち」です。この経験が、皆さんの将来の夢や希望に繋がる貴重な一歩となることを心から願い、皆さんの成長と活躍を心から応援しています。

最後になりますが、このサミットを準備から支えてくださった先生方、市役所関係者の皆様、そして傍聴いただきました市議会議員の皆様、保護者の皆様に心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

以上をもちまして、閉会の挨拶とさせていただきます。

議長（伴帆夏）

ありがとうございました。

終わりに、中学生全員で、これまで御協力をいただいた全ての皆さんに御礼を申し上げたいと思います。

中学生起立。ありがとうございました。

（中学生、起立して一礼）

（拍手あり）

皆さん、御着席ください。

これをもちまして、「市制55周年記念事業大府市中学生サミット」を閉会します。

皆さん、気を付けてお帰りください。お疲れ様でした。

閉会 午後3時27分



大府市中学生サミット 共同宣言

私たちは、大府市すべての中学生を代表し、市が掲げる「健康づくり都市宣言」および「平和都市宣言」の理念に基づき、「健康と音楽が調和するまちおおぶ」の実現を目指して、私たちにできる実践を決意として宣言します。

- 1 地域の人たちと協力して、誰もが笑顔で暮らせる健康なまちをつくります
 - (1) 地域の健康づくりに関するイベントに関心をもち、積極的に参加します。
 - (2) 家族や友人と声をかけ合い、地域で行われる活動に主体的に関わります。
 - (3) 地域の一員としての自覚をもち、自分にできることを考え、行動に移していきます。
- 2 日々の生活に音楽を積極的に取り入れ、地域の人たちとともに心身の健康増進に励みます
 - (1) 生活習慣を見直し、規則正しい生活を心がけます。
 - (2) 日常生活の中に音楽を取り入れる時間を意識して設け、心と体のリズムを整えます。
 - (3) 家族や友人と声をかけ合い、地域の運動施設などを活用して体を動かす習慣を広めます。
- 3 音楽の力で、年齢や障がいを超えてすべての人がつながるまちを目指します
 - (1) 互いの違いを認め合い、支え合いながら共に生きる姿勢を大切にします。
 - (2) 歌や楽器、リズム体操などに親しみ、心と体の健康づくりを楽しく続けていきます。
 - (3) 音楽イベントや地域の交流活動に積極的に参加し、年齢や立場を超えて人とつながる機会を広げます。

私たちは、この共同宣言に基づき、健康と音楽の力で、私たちのまち「おおぶ」が、もっと元気に、もっと笑顔であふれるまちとなるように、日々の学校生活や家庭、地域の中で、一つひとつの行動を着実に実行していくことを誓います。

令和7年8月27日 大府市4中学校 代表生徒一同

大府市は、共同宣言の趣旨に賛同し、中学生の皆さんの活動を応援します。

令和7年8月27日 大府市長 岡村秀人



市制 55 周年記念事業
大府市中学生サミット会議録
令和 7 年 9 月 発行
編集発行 大府市教育委員会